

DX推進計画 2026

2026年2月制定



明日への挑戦で未来の技術をリードする

株式会社サンテクノ



明日への挑戦で未来の技術をリードする

DX推進計画2026の策定にあたって

当社は、2002年の創立以来、温暖化を少しでも抑える業務に取り組んでみたいと考え、環境技術の提案を世の中に広めております。強い決意で会社の経営方針の柱に位置づけて地域発展を目指し、お客様に喜ばれる会社づくりを第一に考え、熊本の未来を切り開き、日本一暮らしやすい街づくりを推進し日々技術の研鑽に努めています。

近年、気候変動による自然災害の頻発や環境問題に対する社会的意識の高まりを背景に、私たちが提供する環境技術への期待はますます大きくなっています。また、AI（人工知能）やデジタル技術の急速な進化は、私たちの事業活動や経営環境に大きな変革をもたらしています。私たちは、これらの技術を適切に利用することが、環境保全と生産性の向上に繋がる重要な手段であると認識しています。

このような状況を踏まえ、これまで以上の価値をお客様へ提供するために、私たちは「DX推進計画2026」を作成しました。デジタル技術の活用で、これまでの業務を変革し、効果的な技術者および監理者を育成することで、ふるさと熊本の未来を切り開いて参ります。

代表取締役 福田 善之

経営理念 —成長・発展・社会貢献—

経営方針

- 一、常にお客様とのご縁に心から感謝しよう
- 一、常にお客様には仕事を通して迅速な対応と安全・安心・安定を基本に安全第一を優先しよう
- 一、常にお客様にはネガティブな対応は控えてポジティブな考え方で素直に対応しよう
- 一、常にお客様には仕事を通しておもてなしと創意工夫で信頼度を高めて行こう
- 一、常にお客様には技術の技と美しさに磨きをかけ能力向上に努め感動を与えて行こう
- 一、常に毎日健康管理を忘れず健康な体力づくりに努めて行こう
- 一、常に仕事上の目標達成はチームワークと団結で成し遂げて行こう
- 一、常に自分の能力向上へ挑戦し自信と成長を手に入れよう
- 一、常に職場の整理・整頓・清潔・清掃・躰で明るい職場をつくろう
- 一、私達は「働き方改革」導入で長時間労働の是正に努め労働生産性向上を目指し待遇改善に貢献します

- 1 DXビジョン
- 2 戦略
- 3 環境整備 —組織・人材育成・IT環境—
- 4 成果指標

1 DXビジョン

経営理念

DX ビジョン

環境技術とデジタル技術の融合により熊本の未来を切り開く

これまで培ってきた「環境技術」と「デジタルテクノロジー」の融合を図り、激変する外部環境に対応し、お客様へ新たな価値を提供することで、ふるさと熊本の未来を切り開いていきます。

実現の 方向性

デジタルを活用した技術者・監理者の育成

私たちは確かな技術力と機動力、迅速なサービス提供が強みで、技術者の育成が生命線です。デジタルテクノロジーを活用した育成に取り組むことで、技術力に磨きをかけ、お客様満足度を追求していきます。

デジタルによる業務改革

勤怠管理や日報報告などのバックオフィス業務をAIを活用しデジタル化することで業務の効率化を実現し、お客様と接する時間を拡大することで、新たな価値を提供します。

戦略Ⅰ

効果的かつ効率的な
技術者・監理者育成

戦略Ⅱ

IoT・AIを活用した
環境配慮型設備の実現

戦略Ⅲ

計画的な業務のデジタル化

2 戦略

戦略Ⅰ

効果的かつ効率的な
技術者・監理者育成

技術者と監理者の育成は、当社の生命線であり人材なくして当社の存続はありません。デジタルを活用した効果的かつ効率的な人材育成に取り組みます。

- 現場OJTや研修動画、Eラーニングを活用した業務コンテンツを整備することで、時間と場所にとらわれない学習環境を構築します。
- 現場マニュアル等の各種社内文書をクラウドで共有することで、いつでも参照可能な環境を構築します。
- 外部セミナーや勉強会に積極的に参加し、AIなど最新のテクノロジーに触れる機会を提供します。
- 社員満足度の更なる向上のためオンラインアンケートツールの活用により改善を重ねます。
- ウェアラブルデバイスによる体調管理により安全と効率を確保します。

戦略Ⅱ

IoT・AIを活用した
環境配慮型設備の実現

IoTやAIを活用した設備により空気と温度を一括管理することで、お客様に安心で安全な環境を提供し、お客様の健康を守る取り組みを高度化します。

- 空調設備にIoTを取り付けることで、室内の温度や二酸化炭素濃度、設備の稼働状況をデータとして収集し、一括管理を行います。
- 収集したデータをリアルタイム分析することで、温度調整案内や換気案内など、空調設備からお客様へ自動で案内する仕組みを実現します。
- IoTから収集した大量のデータをAIで定期的に分析することで、設備の故障予測や新たなサービス開発等へ活用します。
- データ分析で得られたノウハウを他の業務に展開することで、データ分析を組織として定着させます。

戦略Ⅲ

計画的な業務のデジタル化

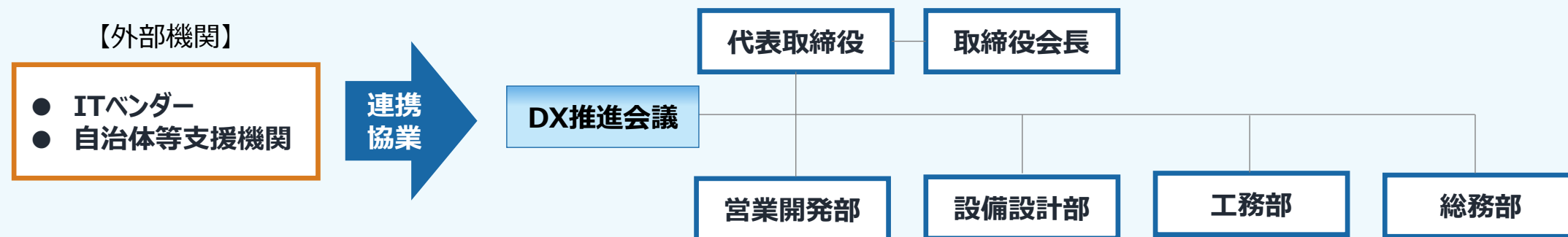
システム導入による費用対効果を十分検証し、効果が高いものから順次デジタル化することで、業務効率化とペーパーレス推進（環境保全）に取り組みます。

- 紙で運用している報告業務（勤怠管理や日報報告等）をデジタル化していきます。
- 社内で管理しているファイルサーバをクラウド（オンラインストレージ）に移行することで、社員にとって働きやすい環境を実現します。
- Web会議やオンラインストレージの活用による効率的なミーティングを実現します。
- AI活用を内製化し、各種業務に応用します。
（施工日報、巡回記録、指示書、安全管理等）

3 環境整備 —組織・人材育成・IT環境—

(1) 組織

- 代表取締役直下に「DX推進会議」を設置し、定期的にDX推進計画の進捗状況を確認するとともに、デジタル技術の情報収集を行います。
- 総務部をDX推進計画の責任部署とし、新しい環境技術について調査・研究を行います。
- 外部機関（ITベンダ、自治体等支援機関）と連携・協業することで、外部機関のノウハウを社内に取り込んでいきます。



(2) 人材育成

- 総務部に「DX担当責任者」を任命し、戦略を着実に実行していきます。
- 全社的なITリテラシーの底上げを目的に、情報処理技術者試験（ITパスポート試験）をはじめとした、デジタル関連資格の取得を推奨していきます。
- 研修動画やEラーニングにデジタル関連のコンテンツも整備することで、社員向けに学習機会を提供します。

(3) IT環境

- IoTから発生したデータを蓄積するためのデータベース環境を整備します。
- データ分析に必要となるソフトウェアやAIツールを選定し、導入します。
- クラウドを安全に利用するために、ネットワークやセキュリティ対策を実施します。
- デジタルツールの更なる導入に向けて、ツールの評価方法や効果検証方法等を整備していきます。

4 成果指標

各指標により成果状況を把握します

戦略Ⅰ

効果的かつ効率的な
技術者・監理者育成

2028年

- 技術者・・・+ 5 名
- 監理者・・・+ 3 名

戦略Ⅱ

IoT・AIを活用した
環境配慮型設備の実現

2028年

- 環境配慮型設備のコンセプト決定

2029年

- IoT・AI環境整備完了
- 収集データモデルの構築・分析

2030年

- サービス開始

戦略Ⅲ

計画的な業務のデジタル化

2027年

- 勤怠管理システムの導入完了
- AIによる業務見直し

2027年

- 日報の完全デジタル化完了
- オンラインストレージ導入完了

人材育成

2028年

- DX人材の採用 2 名
- デジタル関連資格の保有者数 3 名
(延べ人数)